

平成 27 年 3 月 18 日、ユニオンビル(富士通労働会館)にて、約 70 名が参加し、開催されました。代表幹事報告に引き続き 2 つの講演を行いました。

一つ目は、恒例となっている特許庁からの講演で、審判部審判課長後谷陽一氏を講師に迎えて、「特許庁行政の最近の動向(情報とシステムの観点から)」と題して、最近の日本特許出願やグローバル化対応として PCT 海外出願のトレンドとその解釈にはじまり、特許庁が知財立国を目指した多くの知財政策、その目標達成に向けての実行状況や課題など紹介頂きました。

私ども会員に関連の深い課題としては、先行技術調査における特許文献調査をめぐる環境が大きく変化していることへの対応について時間を割いて頂きました。日本での出願特許はかつて世界の 50%以上を占めており、日本にファミリー出願している外国出願も多いことから、先行文献調査では日本特許のみを対象としていても、有意な特許文献調査が可能でした。しかし、2013 年にはその割合は 13%程度まで減少し、英語はもちろん、世界全体の出願数の 55%以上を占めるようになった中国特許出願文献への対応が急務となっています。外国語文献サーチシステムの整備、世界共通の特許分類の調整・整備、登録調査機関による先行技術調査の拡大などの最新の推進状況について、いつも変わらぬ流暢な口調で分かり易く紹介頂きました。

二つ目は、立命館大学工学部機械工学科 教授 木股雅章氏より、「赤外線イメージセンサとその応用」と題して講演を頂きました。

私ども素人向けに民生用赤外線検知センサーの基礎知識の紹介に始まり、MEMS 技術が赤外線センサー技術の進歩に大きな貢献を果たし、現在 0.05℃の変化を捉える技術となっているという現状の説明がありました。その応用分野は、視覚補助、セキュリティ救難、工業計測、消防、医療、建物診断、天文観測、スマートフォン装着カメラなど多岐にわたっています。

具体的な活用事例として、夜間における自動車事故多いことへの対応としてカメラ(車載 NVS)による夜間での人間の存否・挙動の認識状況の紹介、医療応用の例として患部の温度変化映像、さらに保安全管理業務の補助として配電盤接続不良部分や太陽光発電パネル不具合部分の検出、各種工業計測での活用事例を動画で紹介頂きました。またスマートフォンに搭載され始めた FLIR カメラコアによる映像は実際に手に取って見せて頂き、体験させて頂きました。

現在、赤外線検知センサービジネスには高分解能製品と低コスト化製品の二つの流れがあり、2016 年から市場が急速に伸びるであろうとの予測で、車載、防災、セキュリティ、保全分野で市場の拡大が大きく期待されているとのことでした。

なお、赤外線センサー技術は、海外では国プロとして強力的に推進されており、既に製品事業化など成果が出ているとのことでした。日本が従来得意として来た MEMS 技術の有力な応用分野において、現在、遅れを取ってしまっているとのことでした。

例会終了後、恒例の懇親会を同ビルのレストラン「ピッコロ」で開催しました。お二人の講師の方々にも参加頂き、さらに深めた意見交換が行われました。加えて、3月末で異動や退職される会員メンバーもあり、特別に挨拶を頂くなど意義深い交流となりました。

